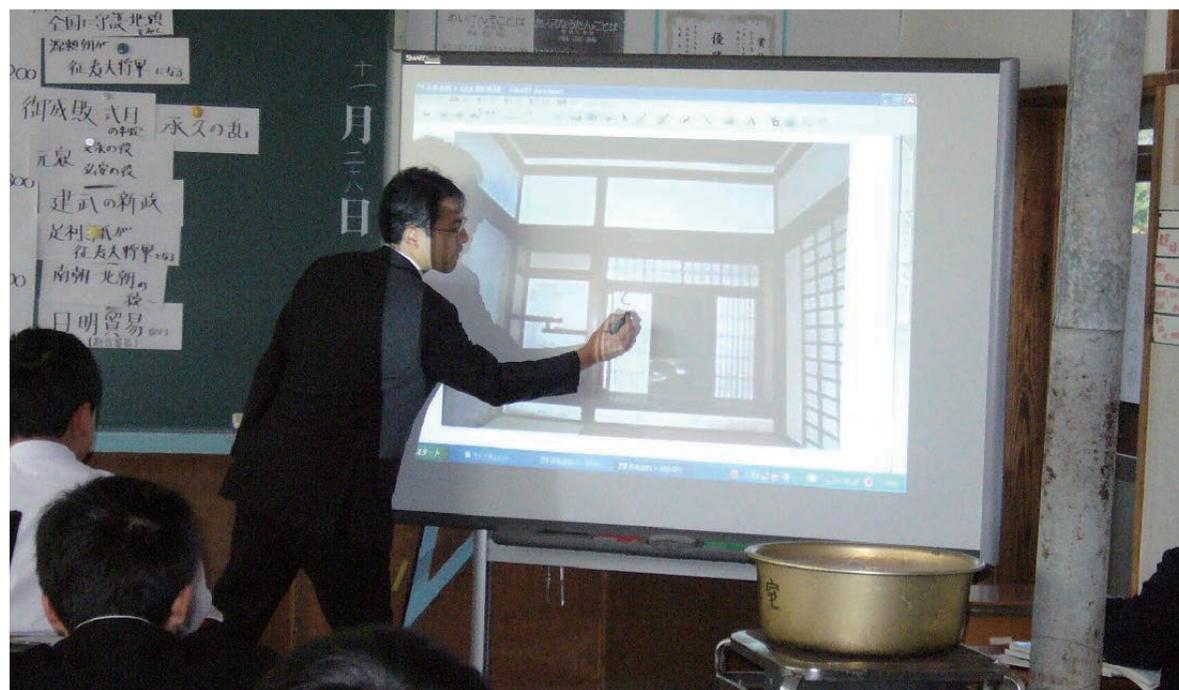




昨日の黒板が復活する?!



電子黒板を使う上でのねらい

- ・「東求堂」の画像を提示し注目させたい部分を拡大提示することで、生徒の視線を一致させることができるとともに、自宅との共通点を把握しやすくする。
- ・北山文化、東山文化の特徴を、電子黒板上に一時的にまとめることにより、知識として定着しやすくするとともに、まとめの段階でも同一画面を活用することにより、授業の振り返りを容易とする。

電子黒板を使ったことによる効果

画像を拡大提示することで、注目させる部分を生徒に意識させることができた。また、知識として定着させる事項や関連づけたい事項について、電子黒板に直接書き込むことができ、それを授業のまとめで再提示することで、振り返りを容易にした。



授業のねらい・ポイント

- ・日本の伝統文化に関心を持ち、室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを見出すことができる。
- ・金閣・銀閣の写真資料やその他の資料を比較し、文化の特徴を読み取ることができる。

授業の展開

- ① 本時の課題の提示（電子黒板利用）
 - ・「東求堂」の画像を提示し、室町文化と現代の住居との共通点に気づかせる。
- ② 室町時代の文化の特徴を把握する。（電子黒板利用）
 - ・建造物の画像及び将軍の組み合わせを考えさせる。
 - ・「金閣」「銀閣」の画像の比較により北山・東山文化の特徴を把握する。
- ③ 室町文化と現代の文化の共通点を把握する。（電子黒板利用）
- ④ 本時のまとめ

利用した教材・コンテンツ
自作コンテンツ（電子黒板付属ソフトウェア使用）

～ 上先生からの一言 ～

学習効果の高い画像や書きこみを利用することで、生徒の興味・感心そして集中力を持続させていますね。それだけ理解度も深まることでしょう。また導入時に電子黒板上に書きこんだ画面を終末に再度呼び出して振り返りに用いるのも電子黒板の画面の保存ができるという特性を大いに利用していてGOODです!!昨日の黒板を呼びもどすことは通常では不可能ですね?電子黒板ならそれができるのです。



③ 授業での活用



児童にとってはテレビ感覚! 高い共通理解を促す



授業のねらい・ポイント

4年生の環境学習の一環として、「生き物のすみかを作ろう」プロジェクトが計画されている。本校では、本年度、初めてビオトープを作ることになった。池を掘ってビオトープを作る作業に入る前に、メダカをふやすためにはどのような環境にすればいいかを考えていく学習をさせる。つくば環境フォーラムから招いた専門家の話を聞き、ビオトープに入れるメダカ、周辺の植物やそこにやってくる生き物の生態を学び、ビオトープ作りに生かすようにした。

授業の展開

- ① つくば環境フォーラムからビオトープ作りの専門家を招き、メダカのすみかづくり、水生植物についての話を聞く。
- ② ビオトープに植栽する抽水植物や浮葉植物、沈水植物の生態やトンボの種類について知る。(水生植物やトンボの図鑑を拡大投影したり、図鑑のデータを保存し種類を確認したりするために電子黒板を使う。)
- ③ 水生植物を植える場所、トンボが来そうな場所をおさえながら設計図を書く。

利用した教材・コンテンツ

図鑑「自然のアルバム」

電子黒板を使う上でのねらい

今回の学習においては、図鑑の写真を電子黒板に投影して、ビオトープに植栽する水生植物の種類やそこにやってくるトンボの種類を判別させることにした。水生植物やトンボの名称や生態についての説明を聞くだけでは、完成したビオトープに植栽された水生植物やそこにやってくるトンボの生態を把握させることは、困難である。電子黒板を活用すれば、より鮮明な画像で学習させることができる。水生植物では、ガガブタやタコノアシのように形態が、トンボでは、ギンヤンマやアキアカネのように色彩が、生態の種類を判別するためのポイントとなる。判別する際に、ポイントなる部分を拡大したり、ペンを使って違いを書き込んだりすることにより、ビオトープに植栽する水生植物の種類やそこにやってくるトンボの種類を把握させることができ、メダカをふやすためには、どのような環境にすればいいかという思考が高まるはずである。

電子黒板を使ったことによる効果

電子黒板を使うことにより、図鑑の水生植物やトンボの写真を容易に投影することができた。黒板にかいた図や紙データとちがひ、電子黒板の映像は、水生植物やトンボの様子が鮮明に表現され、児童にとって、種類の判別がしやすくなった。



電子黒板の設置面での工夫

- 授業では、チョークを使って説明するために使う黒板と図鑑の写真を投影するための電子黒板を教室に並べて設置した。
- 授業終了後オープンスペースに電子黒板を移動し、図鑑よりスキャンした水生植物やメダカのデータを、4年生全児童がくり返し見て、確かめられるようにした。

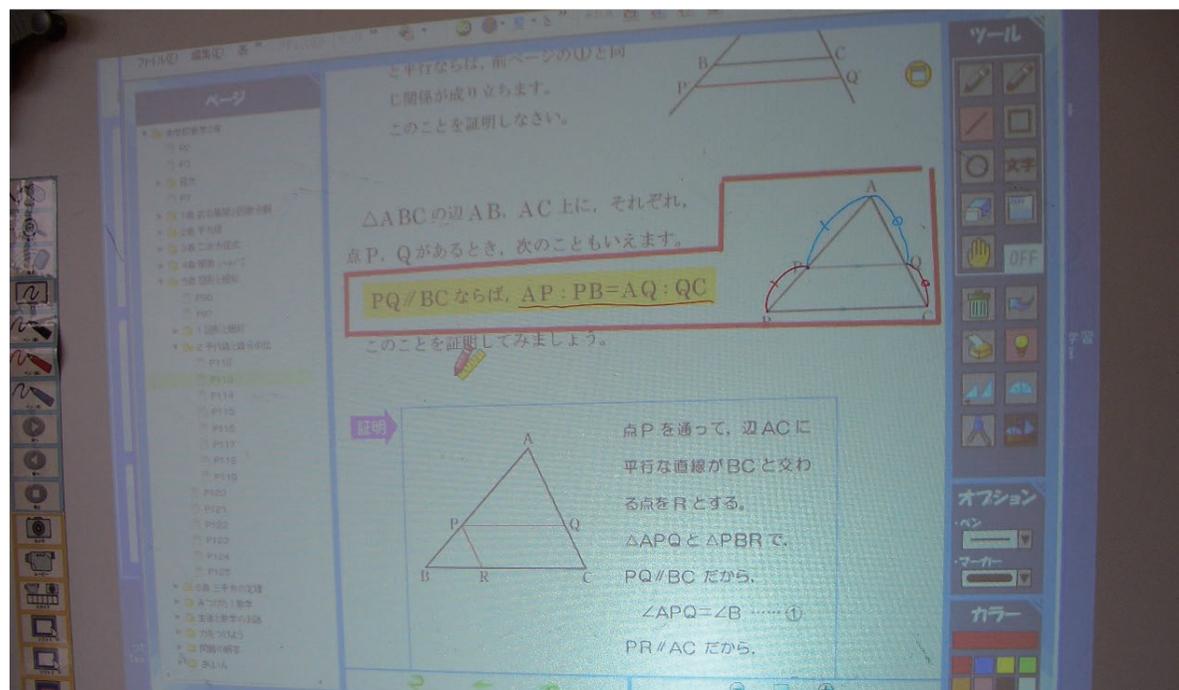
～ 上先生からの一言 ～

電子黒板に映し出す映像に児童は集中して見入ります。これは大きく鮮明に映し出されるということはもちろん、テレビをみている時間が長い現代の子供事情も影響しているのでしょうか。今回の実践では電子黒板の特性である書きこみも利用し学習効果を高めていますね。昆虫の姿や色の違いなどを理解させるにはより鮮明に映し出すことのできる一体型の電子黒板がGOODです!





生徒と同じ学習環境を黒板に



授業のねらい・ポイント

- 相似な図形の性質から平行線と線分の比の関係をとらえる
- 平行線と比を使って線分の長さを求める
- 線分の比から平行であることを理解する（逆）

授業の展開

教科書と同じ画面を提示し、最初から最後まで電子黒板を利用。平行線と線分の図を拡大し、対応している線分ごとに色を変えて示し、説明した。

利用した教材・コンテンツ

ますなび先生（啓林館）

電子黒板を使う上でのねらい

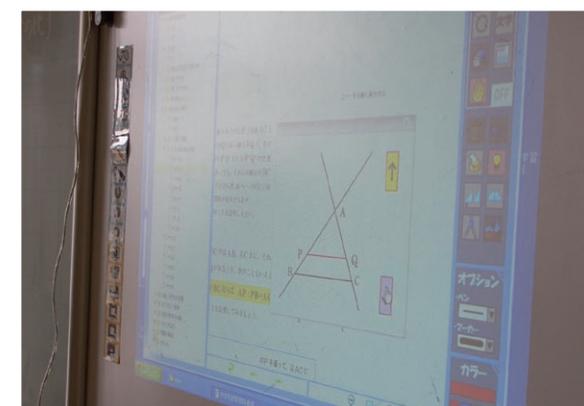
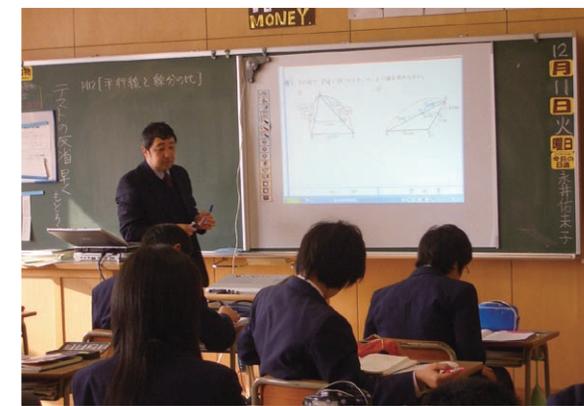
- 教科書と同じ図を拡大し、見やすくする
- 色をつけて説明し、とらえやすくする

電子黒板を使ったことによる効果

- 教科書ソフトだけでは、スクリーンいっぱいに画面を大きくすることができないが、電子黒板を使うと、適切に大きくできる。
- 生徒は、説明や機器操作が適切であるときは分かりやすいと応じてくれている。トラブルがあったときに、フラストレーションがたまる生徒もでてきているので、課題であると感じている。

電子黒板の設置面での工夫

外の光の影響をなるべく受けないように、黒板の右側にスクリーンをはった。



③ 授業での活用

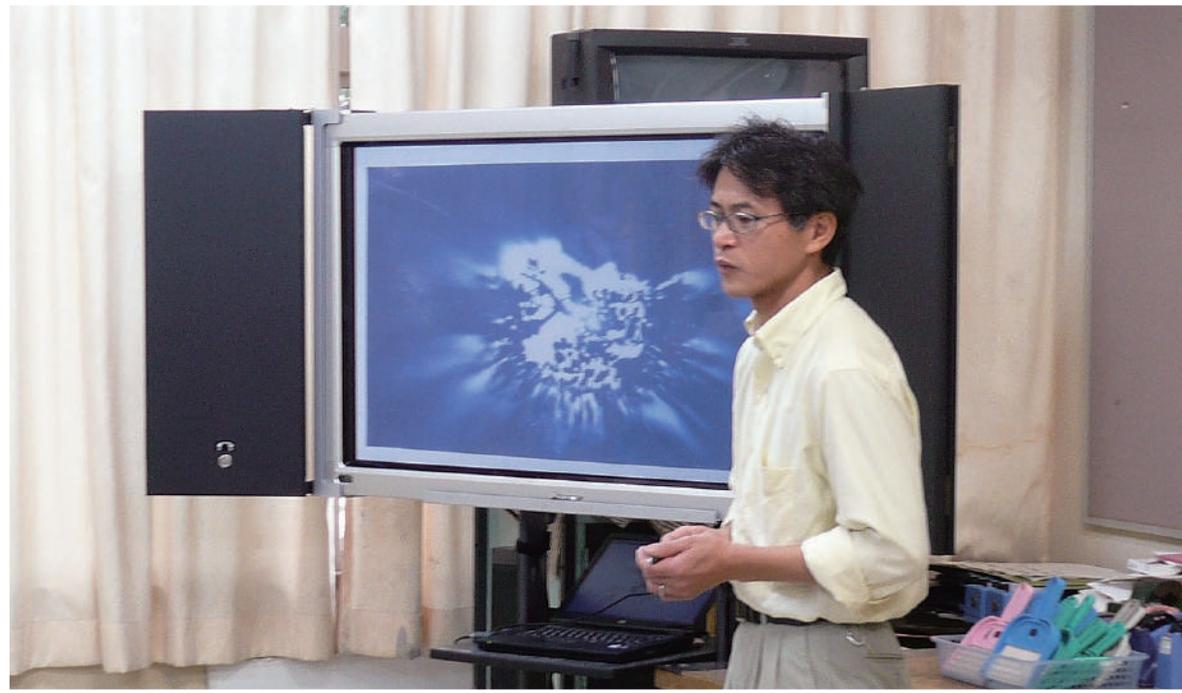
～ 上先生からの一言 ～

教科書画像などの生徒と同じ学習環境を黒板に提示することで視覚的学習効果に深まりをもたらします。さらに電子黒板では教科書の一部を拡大させることも簡単です。重要部分を拡大しそこにさらに書きこみ理解を深める。簡単な使用方法でも大きな学習効果を生み出します。





鑑賞のあり方を広げる授業



授業のねらい・ポイント

題材名: My Blue World ～心に残したい風景～

本題材は写真の授業で、段ボールカメラを制作し、コピーアートペーパー（日光写真のようなもの）で、自分たちの作品にふさわしい被写体を考え、身近なものや風景の中からよさや美しさを感じた部分を切り取り撮影する授業です。

本時の内容：段ボールカメラで撮影した作品の鑑賞

自分の作品や友達の作品から、その美しさやよさを感じ取る。（撮影の視点や構図のおもしろさなど）

授業の展開

- ① 本日の鑑賞会の流れの説明
- ② 自分の作品鑑賞
- ③ なりきり作品鑑賞（友達になりきって作品について解説する）（電子黒板利用）
- ④ 友達の作品鑑賞（電子黒板利用）教師による解説を加える際に活用しました。
- ⑤ まとめ

利用した教材・コンテンツ

自作コンテンツ（PowerPoint 使用）

電子黒板を使う上でのねらい

撮影した作品を鑑賞する場合、写真自体は小さい（B5）のでクラス全体で説明するために活用しました。特に、事前に準備しておいた作品を自由に取り上げて説明しました。さらにその作品に拡大や説明の線等を加えて具体的に説明することを考えました。

電子黒板を使ったことによる効果

- ・ 作品をクラスの生徒に提示する場合、プロジェクターでは写真の色合いがどうしても白っぽくなってしまい、作品の雰囲気伝わらなかった。しかし、電子黒板を利用したことで、色合いがとてもよく出ている上に大変見やすかった。
- ・ 作品の一部を拡大してみせることで、作品の解説がしやすく、生徒にも分かりやすかった。さらに、構図の説明では、直線を書き入れることで大変理解しやすかったようです。

電子黒板の設置面での工夫

電子黒板が光を反射すると見づらいので、窓側において光を反射しないように気をつけました。



～ 金井先生からの一言 ～

生徒の作品をデジタル化して電子黒板に提示し全体で鑑賞することは、わたしもよくやります。本実践で行われているように見せたい部分を拡大提示しポイントとなるところにマーキングを行うことにより、作品のよさを共有することができます。本実践ではパワーポイントで教材化したようですが、このような使い方をするときには「dbook」というソフトがお勧めです。連番の画像ファイルを一度に貼り付けることができる上に、もとの画像の大きさに関係なく画面の大きさに合わせて貼り付けることができます。教材再生時の操作性も優れています。

